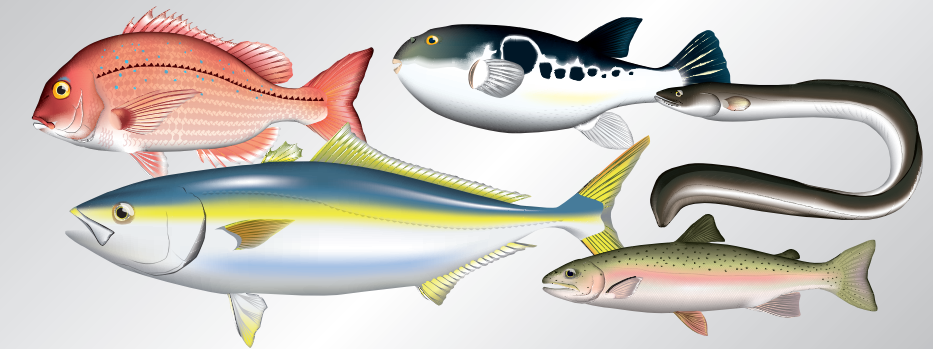




特殊処理菌体末混合飼料

強健-S



- 特長 **1** 強健-Sは、ピフィス菌体末のペプチドグリカン (PG)を主成分とする混合飼料です。
- 特長 **2** 強健-Sは、海産養殖魚介類の健康維持が期待できます。
- 特長 **3** 強健-Sは、固形飼料(DP、EP等)によるPG給与を容易にするために工夫をした製品です。
- 特長 **4** 弱い魚の健康が維持できれば、魚群全体の健康度は保たれます。

ペプチドグリカン[®]は乳酸菌の一種ビフィズス菌 (*Bifidobacterium Thermophilum* 属) から製造したものです。

ペプチドグリカン[®]を魚が摂取すると、細菌等の微生物が体内に入ってきたときと似た感受性 (疑似感染) を示すため、魚の健康維持に役立つと考えられています。

一度病気が発生するとたちまち全群に広がり、営利追及どころか経営面で致命的ダメージをこうむることになりかねません。一般に病気が発生したときは、魚が一気に全滅することなく、まず何尾かの弱い魚が警告するかのよう死亡します。不幸にして手当てが遅れたときには、急激に大量死亡 (普通の魚) を招き、その後死亡魚は減少して病気に耐えた強い魚のみが生き残ることになります。

ここで言う「弱い魚」を「普通の魚」へ、「普通の魚」を「強い魚」へと健康度をワンランクずつアップさせたらどうでしょう。「弱い魚」は最初の感染源ですから、これをなくせば病気が発生しにくくなると考えられます。

飼料の種類

ビフィズス菌体末混合飼料

原材料名

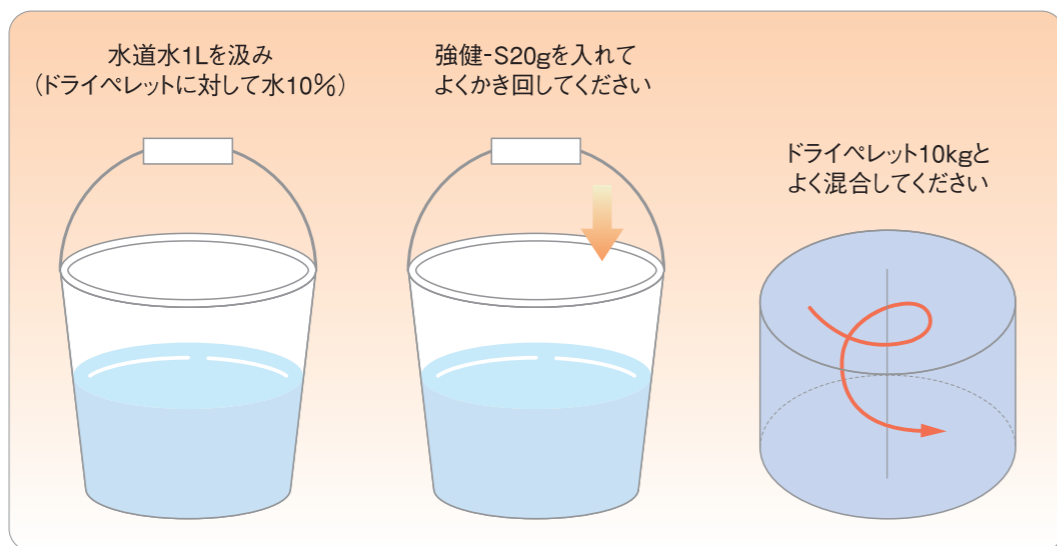
ビフィズス菌体末、乳糖、ブドウ糖、デキストリン

使用方法

魚体重 1kg 当たり 0.1~0.2g を養魚用飼料に混合して与えてください。

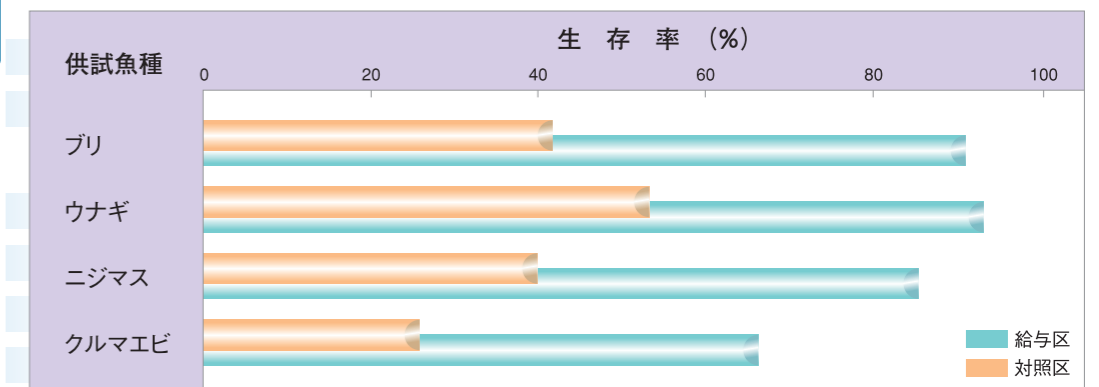
給与方法

モジャコ 100kg、ドライペレット 給餌率 10%、強健-S 0.2g/kgB.W. のとき



ペプチドグリカンの給与が魚介類の生存率に及ぼす影響

ブリ、ウナギ、ニジマス、クルマエビについて実験したところ、ペプチドグリカン[®]給与により高い生存率を示しました。



ブリ (水産大学校との共同試験) ウナギ、クルマエビ (水産大学校) ニジマス (全農飼料畜産中央研究所)

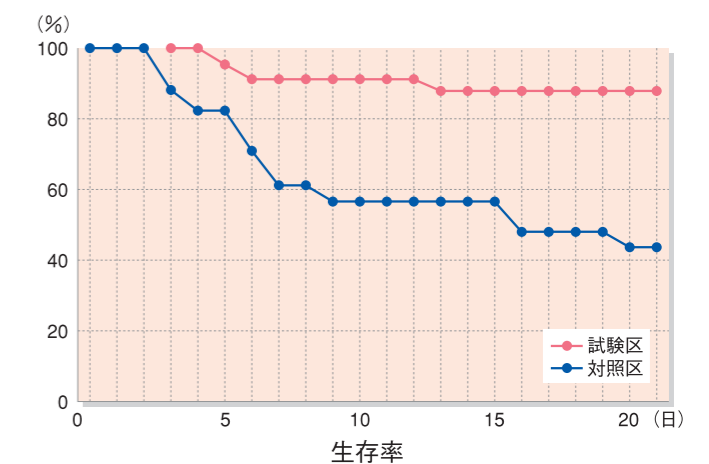
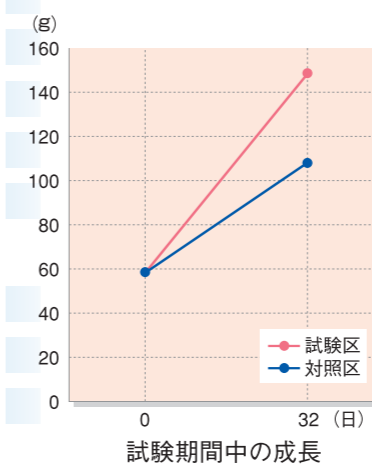
給与試験結果

供試魚: モジャコ (平均体重 57g) 23尾/区

供試飼料: 強健-S

給与量: 0.2g/kgB.W./day 連続給与

〈結果〉試験期間中の成長は、強健-S 給与区において高い増重効果がみられました。生存率は、強健-S 給与区が高い生存率を示しました。



給与パターン

強健-S 給与開始当初は、7日間連続給与してください。

その後は、魚群の健康度に合わせて、連続給与とするか 1週間のうち 3~4日の給与を繰り返す間欠給与をしてください。

給与パターン例

